

佳作

五年前にみつけた宝物

福島県 いわき市立平第一中学校二年 小野 有希奈

平成二十三年三月十一日に起きた東日本大震災で、私の家族はより一層絆が深まったと思います。小学二年生だった私は、震災が起きたとき何をすればいいか分からず、机の下に隠れていました。すると祖母が、

「早く外に逃げるよ。」

と言ったので、走って外に逃げました。無我夢中で走ったのを覚えていません。それから外で家族全員がそろろうのを待っていました。最後に母が戻ってきたときには、安心からかたくさんの涙が出ました。一旦、車の中に避難して父と兄が家の中から食べられそうな食料を持ってきてくれ、六人でそれぞれ分け合って食べました。まだ小さかった私に、姉は自分の食事を少し分けてくれました。あの時は意味を理解していなかったけれど、今考えると私を氣遣って

くれたのかと思います。その後、避難する場所を考えました。私の家は、昔ながらの家で、祖母には深い思い入れがあるということ、避難はしないということになりました。家族六人で茶の間に固まり、テレビで震災の状況を確認しました。自分の家ということや、家族みんなが周りにいてくれることで、安心感がありました。やはり、家族の力はすごいと思います。

中学二年生になった今、私には好きな言葉があります。それは、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉です。これは、小学六年生のときに担任の先生が教えてくれました。この言葉を聞いたとき、私は震災のことを思い出しました。震災でみんなは私のために食べ物を与え、支えてくれたからです。今度は、私が家族のために恩返しをしたいと思うようになりました。だから、自分でどんな家事があるのか考えてみた時、母の家事は数えきれないくらいたくさんあったので、そこから二つお手伝いすることを目標に決めました。それは、「毎日、茶わん洗いと米研ぎをする」ということです。仕事から帰って疲れているお母さんが、少しは楽になるかなと考え実行しました。女子力のない私には

思ったより大変で、毎日続けられるか心配になりましたが、自分で決めたことなのでしっかり続けようとあの時思いました。今では手慣れたもので、ちょっとした自慢です。母からはよく、

「いつもありがとう。」

と言われ、照れるけど、とても嬉しいです。時間も余裕ができ、母との会話が増え、何でも相談できるようにになりました。また、私のバレーボールの練習に付き合ってくれます。パスをしたり打ち合いをしたり、私と母との大切な時間になっています。

五年前に起きた震災では、数多くの人が亡くなり、未だに震災さえなかったらと思います。しかし、このような経験をするので、私は本当に大切なものを発見することができました。家族の絆。これは、一生の宝物になり、消えることのないものだと思っていました。